

審査員特別賞

「みんなが一つになれば」

学校法人 宮崎日本大学学園 宮崎日本大学中学校 2年
岩元 咲和

「やっぱり僕は日本が好きです。」私はこの言葉を忘れない。

私が1人で買い物をしていた時のことです。その日はとても暑く、お昼前だったということもあり、たくさんの方が買い物をしていました。そのお店にはアルバイトをしている、外国人の男性がいました。その男性はレジの仕事をしていました。レジに並んでいる時、私の前にいた会社員はその男性に「はしを入れてください」と言いました。その声は後ろにいた私にやっと聞こえるくらいの小さな声でした。だから、外国人男性には聞こえなかったようで、「もう一度言ってください。」と言いました。すると、会社員が「お前、日本に何年いるのか。」と強い口調で聞きました。男性は「2年です。」と答えました。会社員は「2年もいて、日本語も分からないし、ちゃんとしゃべることもできないのか。この店はお前のせいで台無しだ。」と言い残して去って行きました。私は、日本人として最悪だと思いました。でも、泣きそうになっている彼に私は何も言うことができませんでした。何と声をかけていいのか分からず、ただ見ているだけでした。その時、そんな自分がとても嫌でした。

すると、私と同じくらいの背の女の子が来て立ちつくした彼に言いました。「日本人が失礼なことをしてしまっでごめんなさい。悪いのはあなたではありません。私も外国に住んでいたことがありました。でも、英語が話せずとてもばかにされました。とても辛かったです。日本は良い人ばかりです。あなたを助けてくれる人はきっといます。だから日本のことを悪く思わないでください」と。するとお店の中から拍手がおこりました。男性はお店の中にいた人に大きな声で「やっぱり僕は日本が好きです。」と言いました。

私はその店によく行きます。外国人男性はいつも一生懸命働いています。その度に、あの女の子の言葉を思い出します。私にはできなかったことを彼女はやりました。私も強くなりたいです。困っている人がいたら優しい言葉をかけてあげたいです。

外国人など関係ありません。同じ人間として困っている時にはお互い助け合って生きていかなければなりません。みんなが理解し合って、良いところを見つけ合っていけば、平和な世界がつけられると私は信じています。